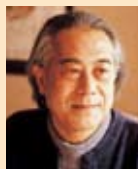


金子みすゞのふるさと 仙崎

作家・金子みすゞ記念館館長

矢崎節夫
やざきせつお

みすゞさんに会うには

みすゞさんのふるさと、山口県長門市仙崎は、日本海に突き出た三角形の町だ。

仙崎に行くには、山口宇部空港から車で一時間半。新幹線新山口駅からなら車で一時間。電車なら二通り。一つは新幹線厚狭駅から美祢線に乗り、一時間ほどで長門市駅に。ここで一駅乗り換えて仙崎駅に。一日六往復ほど走っている。もう一つは、新下関駅から仙崎駅までの山陰観光列車、「みすゞ潮彩」号。平日は普通列車、土日祝は快速になる。一日一往復で、美しい日本海を車窓に見ての、二時間四十分ほどの旅だ。

仙崎駅は長門市駅から一駅だが、一駅のために仙崎線が引かれるほど、栄えた漁港町であったことがわかる。

今は無人駅だが、画家の尾崎眞吾氏のかわい



みすゞさんの部屋にもあがれる。

中庭には、当時のバラが、今もいのちをけないで花をつけている。

本館に入ると、正面に昭和初期のみすゞ通りの大きな写真があり、そこに立つと、すれちがう人の声が聞こえてくるようだ。

本館には、「みすゞ甦り」、「みすゞの生涯」が展示されていて、ほかに検索室や特別展示室、ビデオコーナー、ギャラリーがある。ギャラリーは落ち着いた白の空間で、直筆の詩を読み、手の平で光の詩をすくい、椅子にかけると、日色ともゑさんと仙崎小学校の人たちの朗読が聴こえてくる、みすゞさんの詩を心とからだで感じられる、館自慢のコーナーだ。大きな建物ではないが、記念館を出る時のみさんの表情から、心うれしい時間であったことがわかる。

みすゞさんの墓所遍照寺

記念館を出て右側が「角の乾物屋の」で歌われている白井商店。今もお店は続いている。その先を進むと、「プロジェクトM」の看板が立っている。トンネルのような間に入っていくと、倉庫の大きな扉がある。

ここは、みすゞ通りの新しいお薦めスポットだ。仙崎はカマボコで有名で、そのカマボコ板二万枚で創った、みすゞさんの「大漁」をテーマにしたモザイク画がある。扉を開け

いみすゞさんの絵が迎えてくれる。

みすゞ通り みすゞさん体験

駅前に三角形を二等分するように、道が一本ある。地元の人から、「みすゞ通り」と呼ばれている道で、みすゞさんが学校に通ったり、お使いに行ったり、遊んだ通りだ。今回は瀬戸まで歩いて三十分ほどの通りを紹介する。

みすゞ通りには、みすゞさんに関係のある



場所に、小さな石の標柱が立っている。瀬戸崎尋常小学校（今は仙崎小学校となり、通りの反対側の一本奥にあり、長門市のみすゞ教育の中心になっている）、祇園社、仙崎郵便局、角の乾物屋、八百屋の松安、極楽寺、横丁、遍照寺、そして突端の瀬戸。

通りの家々には、好きなみすゞさんの詩を、それぞれが書いて、下けている。それを読む

て、中に入ると、壁一面に二万人のメッセージと「大漁」の詩。小さな箱型の台の上のスイッチをひねると、一瞬にして海の底。そのあととんがることが起こるかは、やってみてのお楽しみ。このモザイク画を含め、みすゞ通りには、四つのモザイク画がある。長門商工会議所青年部のみさんの毎年の力作だ。

さらにみすゞ通りを進むと、みすゞさんの墓所遍照寺に出る。山門をくぐると、迎えるのは、みすゞさん自筆の「こころ」の詩碑。左側には井戸があり、その先にみすゞさんのお墓はある。昭和五十七（一九八二）年、十六年間のみすゞ探しの末、三冊の遺稿集にたどり着き、初めてふるさと仙崎を訪ねた八月十一日、突然の激しい雷雨の後、長い間、忘れ去られていたお墓は、キラキラと輝いて、みすゞさんの名前を捜す私の目の前に、「上

山ミチ娘 金子

子テル子」という文字を浮かびあがらせた。それから三十年、訪ね

る人は絶えることがない。

王子山から町見れば

遍照寺の少し先は、もう瀬戸。対岸の青海島に手が届く距離だ。青海島へは、今は青海



だけでも、十分にしあわせな気持ちになれる。

町中に詩があふれている所はここしかない。みすゞさんが人々の心に生きている証拠だ。

金子みすゞ記念館

みすゞさん体験の中心、金子みすゞ記念館は、みすゞ通りの三分の一ほどの所にある。ここはみすゞさんが二十歳まで過ごした、金子文英堂書店跡だ。

平成十五（二〇〇三）年四月十一日、生誕百年を記念して、長門市によって建てられ、今年の五月、八年と一ヶ月で百万人ものお客様を迎えている。

復元された金子文英堂が記念館の入口で、一歩入ると、みすゞさんがそこにいるような気がする。二階の



大橋を渡って行ける。橋の上から見る瀬戸は、爽快だ。

橋を渡って左側に、王子山の入口がある。二、三分で頂上。ここから眺める仙崎は、ことのほか美しい。みすゞさんの大好きな仙崎が、ここにある。



「王子山」の中で、ここから見た仙崎を「木の間に光る銀の海、／わたしの町はそのなかに、／龍宮みたいに浮んでる。」と歌い、「王子山から町見れば、／わたしは町が好きになる。」と歌っている。記念館と共に、みすゞさん体験のメインスポットだ。

あとは、大橋を戻って、海岸路を歩くと、弁天島、そして青海島観光基地に出る。観光船から見る海もすばらしい。基地にはみすゞさんの「大漁」の碑と胸像が建っている。仙崎を歩くと、ピーヒョロロと天空からトンビの声がふつてきて、とってもしあわせな気分になる。

ゆっくり歩いて、みすゞさん体験をどうぞ！

——写真提供・草場陸弘氏——